

るくおん通信

発行日： 1992年1月15日

No. 41号

発行者： 盲人情報文化センター録音製作

目次を読むときの配慮

録音製作係 清水賢造

はじめに

私たちは、本の内容を知ろうとするとき、丁寧に目次を見るより、まずばらばらと中をめくってどんな事が書いてあるかを知ろうとするでしょう。しかし、視覚障害者の場合は目次を聞くことで全体の内容を知ろうとします。つまり、視覚障害者にとっての「目次」は、その本の全体をまず知る手がかりとなるものです。ですから私たちが日ごろ目次について思っている以上に大切に扱わなくてはならないことを自覚する必要があるでしょう。

私たちは目次を見れば形式や項目の大・中・小の関係などは一目でわかります。そのために逆に目次をしっかりと読むことの重要さがつい忘れられ、わかりにくい目次の読み方をしている場合が時どき見られます。

目次を音訳する場合、全体の構成や項目の大・小関係がよくわかるように配慮して読むことは当然のことですが、目次の種類によっては音訳者が読み方などでわかるように配慮して読んだつもりでも聞き手にはなかなかわかりにくいものがあります。例えば、私たちが読み分けているつもりの目次も視覚障害者には以下のように聞こえてきます。

[例1]

『目次 第1章 時さえ忘れて 7頁 遠景 ラグビーについて 9頁 帆綱が唄っている。ヨットについて 17頁 最後の登頂者 登山について 27頁 ブラック・バード スキー・ジャンプについて 38頁 咲くやこの花 高校野球について 47頁 スポーツ浮気論 ゴルフについて 58頁 第2章 スポーツへの誘惑 67頁 レースの後に テレビスポーツについて 69頁 …』

[例2]

『目次 一 書物について 13頁 読書 21頁 書評のない国 41頁 読みそこない 43頁 書物ぎらいの読書人 47頁 ……二 生きるよろこび 77頁 日本で読む西洋文学 87頁 』

[例3]

『目次 一 国際感覚のすすめ 11頁 自己紹介 12頁 国際マナー 13頁 会話上達のコツ 15頁 お土産の包み紙 17頁、……二 淑女の時代 39頁 女らしく 40頁 肝っ玉おっ母 42頁 日本語の先生 44頁 ……』

このように目次を書くと、私たちにもどんな目次なのか正確にはわかりません。もちろん音訳者は音訳テクニックを駆使して読むわけですから、中途失明者で目次の形式などを想像しながら聞く人にはある程度わかる場合もあるでしょう。しかし、目次の構成についてなんの予備知識ももたない人も聞くことを念頭において読む必要があります。つまり、誰が聞いても目次の形式や大小の項目が分かるように読む必要があります。その為には項目の前に大小を示す言葉や番号を補わなくてはなりません。

しかし、項目に言葉をつけ加えたりすることに抵抗を感じる方もあるようです。つまり「原本通りに読む」という音訳の原則から外れるのではとか、著者の目次の書き方を勝手に変更してしまうのではとか、目次でそこまでわからせる必要があるのかなどといった疑問です。

これについては、以下のように考えます。

- 1) 墨字で書かれた資料を、可能なかぎり晴眼者と同じ条件（決して同じ条件にはなりません）で聞けるように配慮しながら読むことが音訳作業であること。
- 2) そのまま読むと大小関係が分からないとき、音訳者が適切な符号を付けて読むことは「原本通りに読む」という原則からはずれるのではなく、逆に「原本通りに読む」という配慮をしていること。つまり、晴眼者と同じ条件で読めるようにする作業の一つにすぎないこと。
- 3) 目次でそこまでする必要はあるのかという疑問には、視覚障害者にとって目次は本の内容を知る大事なものであること。

ただ、「目次をわかるように読む」という方法は、項目の前に言葉を補う方法だけでなく、目次を読む前に、あらかじめ音訳者が目次の構成などを説明する方法もあります。この方法については今回は取り上げていませんが、今後の研究課題の一つと考えています。

1. 目次の種類

目次はさまざまな書き方がありますが、大きくは以下の図のように3種類に分けられます。もちろんこの形式に当てはまらない複雑な目次もありますが、今回はこの3種類で考えます。頁は大項目だけにあたり、その逆だったり、すべての項目に頁付けがあたり、なかったりとさまざまです。項目に頁付けがあるか無いかで一定の変化もつきますが、それだけで分からせるのは無理があります。私たちが目次を読んでいるときは、注意しようとしまいと項目の大小関係をきっちり事前に区別してながら読んでいます。音訳する場合も、同様の条件になるよう配慮すべきです。特に本によっては、大項目だけ第○章と章立てしてあり、後の中項目や小項目はなにもないものがよくあります。この場合、中、小項目などの区別がわかるように注意する必要があります。

a. 小項目のないもの

●●●●●●	○頁
●●●●●●	○頁
●●●●●●	○頁
●●●●●●	○頁

b. 小項目はないが分けてあるもの

—			
○○○○○○	○頁	第1章	○○○○○○ ○頁
○○○○○○	○頁		○○○○○○ ○頁
○○○○○○	○頁		○○○○○○ ○頁
二		第2章	○○○○○○ ○頁
○○○○○○	○頁		○○○○○○ ○頁
○○○○○○	○頁		○○○○○○ ○頁

c. 大、中、小の項目があるもの

●●●●●●……	○頁	第1章	●●●●●●……	○頁
○○○○○	○頁		○○○○○	○頁
○○○○○	○頁		○○○○○	○頁
○○○○○	○頁		○○○○○	○頁
●●●●●●……	○頁	第2章	●●●●●●……	○頁
○○○○○	○頁		○○○○○	○頁
○○○○○	○頁		○○○○○	○頁
=====	○頁		=====	○頁
=====	○頁		=====	○頁

1-1. どんな場合に配慮が必要か

- (a) はそのまま読んでも混乱はおきませんが場合によっては番号をつけることもあるでしょう。
- (b) はそのまま読むと、章の柱があるのかないのかが分かりにくい。
- (c) の左はそのまま読むと、(a) のような目次にとられます。また右はそのまま読むとも、中項目と小項目とが分かりにくい。

1-2. 目次を配慮して読む場合の例

(bの例)

第1章 1、○○○○○ ○頁	第1部 1、○○○○○ ○頁
2、○○○○○ ○頁	2、○○○○○ ○頁
3、○○○○○ ○頁	3、○○○○○ ○頁
第2章 1、○○○○○ ○頁	第2部 1、○○○○○ ○頁
2、○○○○○ ○頁	2、○○○○○ ○頁

(cの例)

第1章 ●●●●● ○頁	1 ●●●●● ○頁
1.○○○○○ ○頁	1/1.○○○○○ ○頁
2.○○○○○ ○頁	1/2.○○○○○ ○頁
第2章 ●●●●● ○頁	2 ●●●●● ○頁
1.○○○○○ ○頁	2/1.○○○○○ ○頁
2.○○○○○ ○頁	2/2.○○○○○ ○頁

さて、前出の目次を配慮して読むとしたら次のようになります。

(例1) 「目次 第1章、時さえ忘れて 7頁 1. 遠景 ラグビーについて 9頁 2. 帆網が唄っている。ヨットについて 17頁 3. 最後の登頂者 登山について 27頁 4. ブラック・バード スキー・ジャンプについて 38頁 5. 咲くやこの花 高校野球について 47頁 6. スポーツ浮気論 ゴルフについて58頁 第2章 スポーツへの誘惑 67頁 1. レースの後に テレビスポーツについて 69頁 2. …」

(例2) 「目次 第一部 1. 書物について 13頁、 2. 読書 21頁、 3. 書評のない国 41頁、 4. 読みそこない 43頁、 5. 書物ぎらいの読書人、47頁… 第二部 1. 生きるよろこび 77頁 2. 日本で読む西洋文学 87頁 3. …」

(例3) 「目次 第一章、国際感覚のすすめ 11頁、 1. 自己紹介 12頁、 2. 国際マナー 13頁、 3. 会話上達のコツ 15頁、 4. お土産の包み紙 17頁、… 第二章、淑女の時代 39頁、 1. 女らしく 40頁 2. 肝っ玉おっ母 42頁 3. 日本語の先生 44頁…」

もちろん、章や部などはどれをつかうかは音訳者が判断することになります。本文中に目次がない、一、二などの紛らわしい項目がある場合、目次と混乱しないかもチェックする必要があります。

正誤表から・・・その16

語句	誤読	正しい読み	語句	誤読	正しい読み
賦課	ブカ	フカ	恬淡	テイタン	テンタン
口伝	コウデン	クデン	絢爛	ジュンラン	ケンラン
鑄造	ジュゾウ	チュウゾウ	逆鱗	ギャクリン	ゲキリン
水底	ミナゾコ	ミナソコ	万緑	マンリョク	バンリョク

通りの読み方があるもの・・・その3

語句	古い	新しい	語句	古い	新しい
良家	リョウケ	リョウカ	発端	ホツタン	ハツタン
来迎	ライコウ	ライゴウ	固執	コシュウ	コシツ
人徳	ニントク	ジントク	助言	ジョゴン	ジョゲン
身命	シンミョウ	シンメイ	立願	リュウガン	リツガン

*人徳や助言は新しい読み方しか使わなくなっている。

通りの読み方あって各々意味が異なるもの・・・その3

末期	マツゴ マッキ	臨終 終わりの時期	戸口	ココウ トグチ	戸数と人口 出入口
主客	シュカク シュキヤク	主人と客 主賓	重宝	ジュウホウ チョウホウ	大切な宝物 便利
供米	クマイ キョウマイ	お供えの米 生産米を提出する	経典	キョウテン ケイテン	お教の書物 聖人賢者/書付書

Q & A

◇◇ このコーナーは質問にお答えします。どんな事でも結構ですので質問があれば、お寄せください。

Q：テープ雑誌のコピーをしています。最近イレースしても前の声が消えずに残っています。イレースの機械が不良なのでしょうか。

A：カセットテープには、ノーマルタイプ（TYPE I）とクロムタイプ（TYPE II）メタルテープ（TYPE IV）の種類があり、テープにはTYPE I やTYPE II などと表示しています。普通、TYPE 2以上は市販されているイレーサーでは完全に消すことはできません。テープ雑誌のように何度もイレースして繰り返し使用する場合、TYPE I（ノーマルタイプ）のカセットテープを使用する必要があります。TYPE I のテープは市販のイレーサーでほぼ完全に消去できます。（*お尋ねのケースはTYPE II を使用しておられました。）

リクエスト図書一覧

下記の図書は利用者から原本を用意されて製作依頼を受けています。音訳してもよいと思われるグループや個人の方がありましたら、下記までご連絡ください。はじめてのグループも歓迎します。
(連絡先: 06-441-0015 盲人情報文化センター録音製作係、清水)

- 『Lisp/MS-DOS版エキスパートシステム構築法』 /高橋邦芳著: <情報科学、専門書>
『新世代ビジュアルワーク「遊・名人Ver. 2.0」操作ガイド』 /コーパス事業部著: <コンピュータ>
『会社法』 /鈴木竹雄著: <法律>
『検査値で読む人体』 高見茂人著: <医学>
『薬局で買ったクスリの副作用が分かる本』 岩城利一郎著: <薬学>
『エドガー・ケイシーの超能力健康法』 ハロルド・J. レイリ著: <医学>
『現代なぜなぜ事典 もの知りデータバンク』 日本実業出版社編: <社会科学>
『図解/簡明針灸脈診法』 藤本連風著: <医学>
『中国傷寒論解説』 劉渡舟著: <医学>
『趣味の薬草』 /高橋貞夫著: <薬学>
『酒場』 /常盤新平編: <随筆>
『YAMAHA Electone HS SERIES 取扱説明書』 : <音楽>
『真夜中の喝采新編読書遊記』 /向井敏著: <読書法>
『変身』 /東野圭吾著: <小説>

<>内は分類

音訳を引き受けて頂いた図書とグループ名

- | | |
|-------------------------|--------------|
| 『古代エジプト失われた世界の解説』 | えくてもあ |
| 『悪霊撃退法』 /大川隆法著 | ICCBリクエストチーム |
| 『アラフラ海航海記』 /鶴見良行著 | ICCBリクエストチーム |
| 『薬草』 /井波一雄解説 | えくてもあ |
| 『続 井上ひさしのコメ講座』 /井上ひさし著 | ICCBリクエストチーム |
| 『人間教育における道徳の価値』 /廣池千九郎著 | えくてもあ |
| 『今夜、すべてのバーで』 /中島らも著 | えくてもあ |